

令和8年度 第2次蒲郡市多文化共生推進プラン策定委員会 第2回会議

日時 令和8年3月4日（水）
午後2時30分～
場所 市役所本館303会議室

1 協働まちづくり課長あいさつ

※欠員委員2名

2 議事

(1)第2次蒲郡市多文化共生推進プラン基礎調査結果について

- ① 回収状況について
- ② 外国人市民調査結果について
- ③ 日本人市民アンケート調査結果について
- ④ 自治会ヒアリング・特定技能所属機関向けアンケート結果・蒲郡市の課題と方向性について

(2)今後のスケジュールについて

《参考資料》

- ・第2次蒲郡市多文化共生推進プラン基礎調査 調査結果報告書【概要版】
- ・特定技能所属機関向けアンケート調査結果

2 議事

(1) 第2次蒲都市多文化共生推進プラン基礎調査結果について

②外国人市民意識調査結果について意見・質問

- A 委員：P 2の日本語能力について。日本語を学ぶ手段についてオンラインの教材を希望される方、それから土日・夜の開催を望む方が多いのは納得できる数値だと思う。だけど今回のアンケートは18歳以上を対象にしている。現実には中学を卒業した子どもたち、16.17.18歳のその間仕事をしていない子たちが日本語教室に来る。そういう子たちにとっては平日の日の中の開催が来やすい時間帯だと思うので、働いている側とそうでない若い区分は区別して考える必要がある。外国人の方は「いじめられたから働けない」と（相談に）来るけど、実際にはいじめられたわけではなく、指示が多分通らないのだと思う。また、「遊んでいる」と言われるけど、遊ぶも何もなにをしたらいいかかわからない状況だと思う。だからそういう人たちには平日のニーズも若干あるなと思う。
- 委員長：教室の確保っていうのがすごく大変な作業になる。いろんなパターンがあるといいと思うけど、なかなか全てを叶えるということは難しいから少しずつ改善するしかないと思う。どうか。
- 事務局：A 委員のおっしゃる通りだと思う。今回市の調査ということでやっているけど、日本語教室は市で主催しているものと、国際交流協会で実施しているものがある。平日に関しては、国際交流協会の日本語教室を始め、力を入れてもらっている。協力しながらいい形で今後でも取り組めたらいいのかなと思う。
- 委員長：いろんな意見を出してもらってそこから聞きながらやっていけたらいい。こういう機会が大事。
- B 委員：P 3生活の困りごとについてというところで、「コミュニケーション」というのは広いが、何についてのコミュニケーションか。どんなコミュニケーションに困っているか。そういうことについて考えていきたい。コミュニケーションの内容が教育の中か、仕事の中か、生活の中とか買い物する時も全然違う。
- 委員長：日本語のコミュニケーション関することで困っている、ということだが、特にこういうことみたいな細かいことは聞いてないか。
- 事務局：細かいことは聞けていない。
- 委員長：全般としてさっきB 委員がおっしゃった、全てを含めて「コミュニケーション」としている。それがこの35%ぐらいということ。C 委員は、このアンケート結果はご自分とか周りの状況とあっていると思うか。
- C 委員：私はそのコミュニケーションのところで気づいたが、例えば親の話で、親は仕事の話ならできる。しかし日常生活の日本語は全くできない。仕事ではコミュニケーションに困らないが、銀行や市役所では日本語があまりできないという実態があるので、それも詳しく知れた

らよかったのかなと思う。

- 委員長：年代によって困っていることやコミュニケーションでの困りごとが違うのではないかと。母国から来たばかりの人と、その次の世代とでは困りごとが違うため、その違いが明らかになるといいといいが、そこまでは詳しく見る事はできないか。
- 事務局：細かいコミュニケーション内容まで見るのは難しい。
- D 委員：P 3 右下、子育てに関係した困りごとで「特にない」が 71%と書いてある。特にないと言っている人の中には、もしかしたら何に困っているかが自分たちでも分かってない人が含まれていると思う。その中でも一番上の 7.6%の「子育てに関する行政の支援や情報がわからない」、これをわからないと言える人はその情報にはたどり着けているが、たどり着けていない人もこの 71%の中にたくさんいるのだろうなと思う。
- 委員長：その困りごとをどうやって相談するのか、そういう道筋が分かれると情報が分からないというのが減るかもしれない。特にないというのが気になる。ここに関してはどうか。
- 事務局：今 D 委員の言った実態もあり得るのかなと思う。まずは情報周知の方法、外国人から見てもアクセスしやすい・理解しやすい情報発信に市として努める必要がある。数字がもう少しリアルなものになるといいと思う。

③日本人市民アンケート調査結果について質問・意見

- E 委員：働いてもらっているのに関心がないという結果は、日本人はよくないと思った。今会社の人材でも、コミュニケーション能力がある人が 60%以上を占めるくらい仕事の能力の方が優先されている。コミュニケーション能力がないといけないのに日本人は威張っているような気がするというか、下に見ている感じがあることがこのアンケートで分かった。日本人があまりにも言葉が上手くないというか。コミュニケーションを取らないといけない。日本人は祭りが好きだから、そういう催し物をやって仲介する。そういうので上手く話せばいい。まずは、話さないと始まらない。話せる雰囲気をつくるいい方法は無いかな？
- 委員長：日本人側から外国人住民に対してそういうイベントを提供するべきということ？
- E 委員：蒲郡のみなとという催しがある。あんな感じの雰囲気では何かあれば、催しものを作れば子どもたちも参加できるかなと思う。一番大事なのは子どもたち。先ほどもいじめの話があったが、外国の方は言葉が不自由なのでより大変だなと思った。
- 委員長：事務局はどうか。そういう日本人と外国人が交流できるようなイベントを今後増やす計画は？
- 事務局：予算のからみもあり、できる・できないの回答はしづらい。アンケート結果 P 7 にもあるが、普段から関わりがある方は交流に対して前向きに受け止めている。交流の機会を持つことで結果的に多文化共生というか理解が深まると思う。そういう施策は前向きに取り組む必要がある。市の事業ではないが、R 6 年度から国際交流協会が日本人市民と外国人市民の交流パーティーも大々的にやっている。そういったものを連携しながらいろいろやっていけたら。

- 委員長：「交流したい」「どちらといえば交流したい」の%がもう少し増えればいい。
- A 委員：それに関して。去年交流パーティーを行ったが、日本人がご家族で参加された。無料の景品もあったが、休日にどこかに遊びに行くわけではなくてこの会に参加しようと、お母さんと子どもで来る。それを見ていて、子どももちろんいいし、若いお母さんもそれで交流ができる。外国人が若干少ないが、若い一般市民の方がそこに参加していたのがよかった。
- 委員長：予算の問題もあるかもしれませんが、またこういう機会が増えるといいですね。

④自治会ヒアリング・特定技能所属機関向けアンケート結果・蒲郡市の課題と方向性について

- F 委員：アンケート調査ということで今回特定技能の所属機関向けのアンケートをした。前の会議でも企業さんへという話があったので、いろいろな実態が見えていいなと思った。特定技能の方は、行政機関に協力確認書があるからかなり依頼しやすかったこともある一方、蒲郡市の外国人のみなさんの属性を考えると、永住者とか定住者も多いと思う。企業の人も忙しいし、どういった形で協力してもらえるかという課題もあるが、同じような調査があると、より日本語教育のニーズ等が拾えると思う。また、来年度からは技能実習生が育成就労になり、特定技能になると日本語能力習得の要件がついてくることから、日本語教育に対するニーズが増えてくると思う。そこを捉えていけると、自治会のみなさんが感じている生活の中でのトラブルが変わってくるのかなと思う。そういったことも今後の中で見てもらえるとより実態が分かると思う。
- G 委員：P 1 1 の課題②ではっきりしたこと。下の方の「日本の風習や地域のルールを理解したい」というところで8割以上の外国の方が思ってくださっている。だから日本人との間に誤解があるのではないかなと。日本人のゴミ出しのルールに不満等の意見があるが、中には外国人はルールを分かっていないのではなく、守れないという風に感じている苦情を受けたことがある。そうではなくて本当に文化が違って理解していないことがたくさんある。これを日本にみえた外国の方に分かりやすく伝えていくことが大事。日本語適用初期指導教室のきぼう教室では、絵で日本の学校はこれがルールですということを視覚的支援しながら徹底的に教えている。それでも一生懸命やってもなかなか覚えることができない子もいるが、立ち上がったらだめですとかこういうのは、もしかしたら大人の方にも必要だったのかなと感じた。
それからC委員がおっしゃった、お母さんたちは仕事では困らないけど日常会話で困るというのが、子どもたちとは逆だなと思った。子どもたちはわりかし日常会話はすぐに覚えて馴染んでいく。だから見立てこの子は大丈夫だなと思うが、実は学習言語は理解できていないことが多い。いろいろだなと思った。
- 委員長：日本語指導の重要性というのはこれからますます高まっていくと思う。先ほどおっしゃったゴミ出しのルールについては蒲郡市が作っている「生活オリエンテーション動画」が本当に素晴らしくて、見る度にいつも感心する。7言語でゴミ出しや交通ルールとか日本の生活ルールがこんな風です、というのを全て項目ごとに全部の言語で説明している動画がある。そ

ういうのがあることだけでも、もっと周知するといい。

- F 委員：子どもたちは学校に来て強制的にルールを習うが、大人は仕事がある。せっかく素敵な動画があっても見ることができない。だったら市役所に住民票を出した時にそのまま「免許更新」のような感じで、見てくださいというのも手なのでは。
- 委員長：そういうのも素晴らしい。もっと活用してくれるといいないつも思う。H 委員いかがでしょうか。
- H 委員：アンケート結果は非常にリアルな感覚だなと思った。見ていて面白いというか本音が見えるというか。日本人の回答は閉鎖的に見えるが、ほんとにそうかなという部分もある。P 7 下の右のグラフの関わりがあるとないで答えが違うのは、知らないものへの恐れがおそらくあるのではないかと思う。すぐに変えていくのは難しいと思うが少しずつグラデーションして上の方の棒グラフに移っていくのでは。

この人たちに、「日本人と交流したい」と思うかと聞いたらどんな数値が出るか、どれくらい変わるのかなと気になる。そもそも現代社会ではみんなと交流したいと思っている人が減っているような印象はあるので、そんなに悲観的にとらえる必要もない。

外国人に対する社内研修等の充実が求められている。外国人を受け入れるための施策が増えていることは間違いない。2 次プランに向けてより充実させていければいいと思う。

以上